

いとう
伊藤 おさむの市民ニュース

ホット・ホット・越谷

発行：伊藤おさむ後援会

〒343-0841 越谷市蒲生東町8番37号

E-mail osamuchan@ae.wakwak.com URL http://park19.wakwak.com/~osamucha/

平成17年4月1日発行 №.13

TEL 048-986-9553 FAX 048-989-2397

中央市民会館は、市民文化や生涯学習、福祉活動の拠点として平成4年4月に開館しました。

この施設の構造は、鉄筋コンクリート造、地下1階地上5階建、建築面積2,535.70m²/延床面積12,288.99m²。

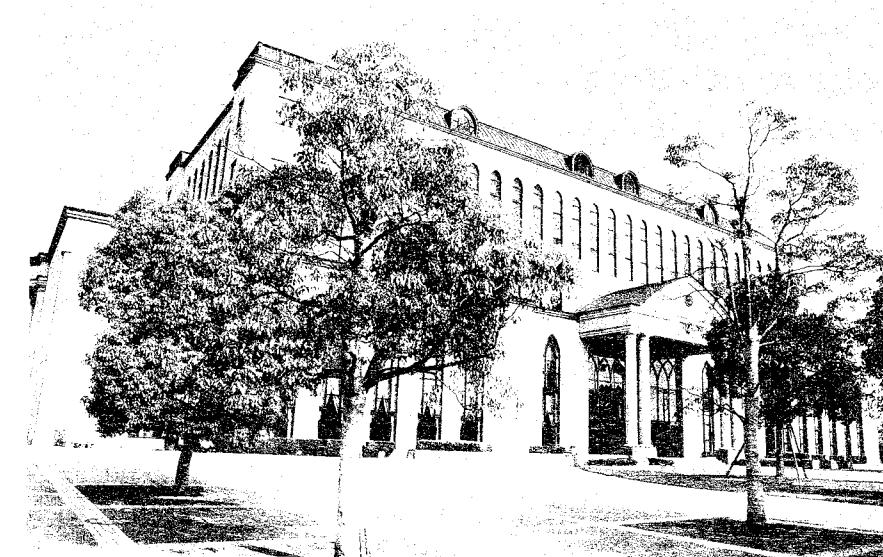
1階には332席と手ごろな座席数の劇場があり、各種サークルの発表の場として利用されています。2階には約140m²のスペースの市民ギャラリーや喫茶コーナー、3階には広さ約190m²の木のフロアの多目的ホールや茶華道室、視聴覚室、工作工芸室、音楽室、4・5階は20~30人用の会議室や特別会議室があり、多くの市民が利用しています。

今時代は、量から質へ、物から心へと人々を導き、ゆとりや潤いのある社会が望まれています。人が出会い、新たな関係が生まれ育つことにより、まちは生き生きとした表情を見せてくれることでしょう。

新しい風

その理由は、市町村合併によって、変則的な選挙を迎えることになったことである。特に、この東部地域においては、栗橋町から八潮市まで首長選挙が六地域で、議会選挙が三地域で行われる。さて、今回の選挙では何が争点になるのだろうか。首長選挙では、厳しい状況化による各自治体運営を切り盛りしていくために、これまでとは違った発想、判断力、行動力が問われる事になる。つまり、リーダーシップである。

これまでのような調整型ではなく、スピード感に決断し全体制リードしていく行動が、市民に見えるようなります。これまでのリーダーシップである。



中央市民会館

越谷市議会議員伊藤おさむの議会報告！

3月定例市議会開催！

平成17年度3月定例市議会が、去る2月28日~3月23日までの24日間にわたり開催され、市長提出議案58件と追加議案1件が原案通り可決されました。その主な内容は、○個人情報保護条例に事業者に対する苦情処理の規定や罰則規定等を追加○男女共同参画推進条例を7月1日から施行○児童館ヒマワリとコスモスの休館日を月曜日とし、月曜日が祝日の場合はその翌日を休館とする○越谷市斎場を8月1日から供用開始○科学技術体験センター(ミラクル)の休所日を月曜日とし、月曜日が祝日の場合はその翌日を休所とする○廃棄物の持ち去り行為の禁止を7月1日から施行○越谷市助役に武藤繁雄氏○その他12件が予算特別委員会で審議の結果可決されました。

また、3月定例市議会の代表質問を私が担当しましたのでその内容をご報告いたします。

1・市長のリーダーシップの意味とその前提条件について

問 市長はリーダーシップの意味を①強力なリーダーシップのもとに市民の皆さんや職員を引っ張って市政を運営していくタイプ②市民の声を聞きながら職員とともに話し合いながら市政を行うタイプの二つで、自分の場合はむしろ後者(②)であると言っているが、両方とも必要なに片方がかけているのではないか。また、後者であるならば、何時でも何處でもどんな理由があろうとも連絡がとれるようにしておくことがリーダーの前提条件と考えるが。

答 私が目指しているのは、強力なリーダーシップではなく、多くの人達が力を合わせて市政運営に当たっていくような仕組みや環境を整えること。従って、その前提条件としては、日頃から議員や市民、そして職員が越谷市の将来像を共有し、一丸となってそれに向かうことが重要であり、そのため市民と積極的な議論がされることが必要と考える。

2・特殊勤務手当に対する市長のリーダーシップについて

問 特殊勤務手当の問題は、過去に色々な議員がその現状にそぐわない、或いは社会的に通用しない手当として質問しているが、その数は一向に変わらない。それは、最近問題になった大阪市同様、職員厚遇であり職員天国であり市民は納得できない。その責任は全てリーダーシップの欠如が招いたことではないのか。

答 各分野における技術革新や社会情勢の変化等を考慮し、特殊勤務手当として支給することの妥当性を判断していく必要があるので、今後、調整手当の引き下げを含めた各種手当の見直し等、給与制度全体の中でその適正化について検討していく。

3・小・中学校の耐震補強について

問 建築年数の古い順から耐震補強をすると思うが、最も古い蒲生小や蒲生第2小は今後28年までの学校整備計画にも含まれていないのは何故か。

答 ご指摘の蒲生小及び蒲生第2小については、昭和38年建築という市内小中学校のなかでも最も古い建物となっていることから耐震補強ではなく、むしろ改築を前提としながら当該地域の児童生徒数の推移等を見据え、将来改築を行っていく計画である。

地域を知るシリーズ No.11

越谷市ボランティア連絡会！

「緑綬褒章受章記念祝賀会を開催」！！

平成17年3月25日、越谷コミュニティセンター桐の間において、越谷市ボランティア連絡会主催の「緑綬褒章受章記念祝賀会」が盛大に開催されました。

このボランティア連絡会は、昭和45年9月にボランティアセンターの前身である善意銀行が社会福祉協議会に設置され、労力の預託している人々(ボランティア)の集いが毎年開催されることになり、市内の障害者団体の要請などを受けながら活動を展開し、昭和50年10月に「越谷市ボランティアの会」が結成されました。そして、昭和53年9月には「越谷市ボランティア連絡会」に改称して現在27年目に入りました。発足から35年間にわたり歴史を歩み続けたボランティア活動は、現在では43グループ、760名(平成17年3月現在)のボランティアが地域で活動しており、平成15年度の活動状況は実活動回数1184回、延べ活動人数10069名となっております。

現在5代目の会長を務める越野操さんは今回の受章について、「昭和46年、初めてのボランティア活動として乳児の湯浴みをされたのをきっかけに現在の連絡会の産みの親であり労力預託第一号でもある名雲トシ初代会長はじめ、歴代の会長のもとに、高齢者、障がい児・者、学校などのたくさんの分野で皆様の長年にわたる熱意と努力が評価されたと思います。」とその喜びを語ります。

しかし、35年間の歴史の中には大変な苦労があり、歴代の会長は当時のことをこう語ります。「ボランティアという言葉が定着しておらず、無報酬でやることが理解できない方々もいた。」、「奉仕イコール生活に余裕があると見られたことが記憶に残ってしまい、そういうことから友達を誘いたかったのですが、手弁当で無償、半日といつても1日になってしまう活動で主婦が家を空けると言うことがなかなか受け入れられない時代だったので友達を誘うことに躊躇したことが思い出される。」などです。また、今後の活動に期待することは、「連絡会会員の年齢が上がってきた。若い仲間をどうやって増やしていくかが課題ではないか。また、活動への意欲を継続してほしい。」、「自分の生活にあった活動を継続していただきたい。仲間内の活動にならないよう、開かれた連絡会にしていくことが今後の課題だと思う。」などです。

今回の「緑綬褒章受章記念祝賀会」に参加して感じたことは、最近頻繁に起こっている自然災害により「ボランティア活動」の理解や必要性などがようやく国民の間に広がったように思えますが、以前から様々な分野で活動してきた結果が今回の受章につながったのだと思いました。

また、緑綬褒章はボランティア連絡会の宝であり、そのボランティア連絡会は越谷市民の誇りだと感じる一日でした。

お問い合わせ「越谷市ボランティア連絡会」

〒343-0813 越谷市越ヶ谷4-1-1
(中央市民会館2F ボランティアセンター内)
TEL048-966-3211 FAX048-965-3855

ボランティア連絡会 越野会長

伊藤 あさむの

～バリアフリー検証～No.13

知的障害児通園施設「みのり学園」

今回は、知的障害児通園施設「越谷市立みのり学園」に伺い、園長さんにその概要等を聞いてまいりました。

この施設は、昭和46年に児童福祉法第43条に定める知的障害児通園施設として開設した施設で、日々の療育の中で日常生活や社会適応のための療育を、児童の発達に合わせて指導や訓練を積み重ねていき、将来にわたって家族や地域の中で生き生きと生活できる力を培っていくよう発達支援をするという目的があります。

療育方針では、発達に遅れのある児童を毎日学園の通園バスで通わせて、年齢やその子の能力に応じて日常生活に必要な動作訓練、基本的生活能力や環境に対する適応性を養うための療育を実施しております。

療育の主なねらいとしては、○一人一人のお子さんの状態に応じて生活リズムを整え、基本的生活習慣を身に付ける。○集団の場での療育を通して人との関わりを深め、情緒の安定や社会性の基礎を培う。○運動遊びや戸外での活動を取り入れて丈夫な体づくりや運動機能の発達を促す。○いろいろな課題指導を通して興味の幅を広げ学習に対する基礎を養う。○親子参加のプログラムや個別指導等を通して、園児の発達についての理解を深めていき、家庭でも一緒に取り組んでいくよう理解を求めるなどです。対象になる児童は、知的障害をもつ児童で原則として2歳から就学前の児童を法律に基づく措置権が必要とした児童を対象としており、現在は1クラス9名で3クラス、合計27名の児童がこの学園に通っています。また、先生方の配置は、3人に1人の体制を組み、1クラス3名、合計9名の保育士で対応しております。しかし、この保育士が人事異動によりローテーションすると、今まで培ったノウハウを失ってしまい、質が低下してしまうのではないかという問題が保護者の最大の懸念材料になっているそうです。その他職員構成は、園長、事務員、給食調理員、運転手、嘱託医等、合計16名の職員構成となっております。

今回、「みのり学園」を訪問したこと、先生方による完璧な療育体制と保護者との連携、さらには地域の人々の理解を知ることが出来ましたが、昭和46年に開設した建物なので、ハード面では早急に手を加えてはならない部分があることを改めて考えさせられました。今後、この「みのり学園」と「あけぼの学園」と「しらこばと職業センター」の3施設が複合施設として整備されますが、ハードとソフトの両面においての意見や、施設の早急なる完成を議会で発言していかなければならぬと考えております。

